

人口減少に歯止めを

4月27日、香美市まちづくり委員会の公文久郎会長から市長に、人口減少問題に関する提言書が手渡されました。

これは、市民で構成するまちづくり委員会が、昨年7月から9回にわたり、『建設・環境』『健康福祉・教育』『産業・まちづくり』の各部門に分かれ協議してきたものです。

提言書では、いままさに直面している人口減少問題について、それぞれの視点から意見がまとめられ、この香美市でいつまでも安心して暮らしていけるようにとの委員の思いが込められています。



▲市長に提言書を手渡す公文会長

交通安全指導員に感謝状

5月10日、高知県交通安全指導員協議会通常総会が開催され、坂本比呂志さん（香北町）が、高知県交通安全指導員勤続20年知事感謝状を受賞されました。

これは、交通安全指導員として平成9年から20年の長きにわたり、地域の交通安全のために尽力してこられた功績に対し、高知県知事から贈られたものです。

長年子どもたちの通学などを見守ってこられた坂本さんの、今後ますますのご活躍をお祈りいたします。



▲坂本比呂志さん



大柵を花いっぱい

5月15日と16日に、大柵保育園の園児と大柵小学校児童クラブ（もんべえクラブ）の子どもたちが、JR四国バス大柵駅前に設置された花壇の植え替え作業を行いました。

これは、大柵駅を花でいっぱいにと、物部地区公民館事業として毎年行われているものです。子どもたちは、マリーゴールド、サルビア、マツバボタンなど100ポットを丁寧に植えていきました。

子どもたちが植えた花は秋ごろまで色鮮やかな花を咲かせ、大柵駅は地域の人々のふれあいの場としてにぎわうことでしょう。



▲青空の下、花や風景を楽しみながら歌碑を巡った

5月19日、香北町猪野々で、吉井勇の歌碑を巡るウォーキングイベントが開催されました。

当日は、市内外から21人の方が参加し、新緑と棚田が広がる風景の中、風を感じながら、勇の足跡が残る道を歩きました。

歌碑巡りと合わせて、地域の方による猪野々の歴史や伝説などの説明があり、参加者の皆さんは熱心に聞き入っていました。



行政連絡会

「質疑応答抜粋」

5月26日と5月29日に、中央公民館（土佐山田）・保健福祉センター（香北）・ふれあいプラザ（物部）の各会場で、平成30年度香美市行政連絡会が開催されました。188（山田122・香北40・物部26）ある自治会のうち121人の自治会長が出席し、市から、予算や補助金、移住定住促進などの説明がありました。その後の質疑応答（抜粋）について、要旨を紹介します。

粗大ごみの戸別回収ができないか

問粗大ごみの有料または無料による戸別回収について、他市では事例がある。香美市でも実施できないか。

答旧土佐山田町では、ごみステーションで粗大ごみの回収を行っていましたが、市外からの持ち込みが多いことや通行に支障があることから、現在は処理場への直接持ち込みとしています。また、ごみ処理費用の一部をご負担いただくことは、ごみ減量化への意識向上と排出抑制につながるものと考えています。粗大ごみの戸別回収は現時点では困難ですが、民間事業者への委託等、対応策を検討していきたいと考えています。なお現在、ごみ出しが困難な高齢者や障害者を対象に、可燃ごみの戸別収集について準備を進めています。

災害時の避難に関する情報の出し方に工夫を

問台風などの災害時に発令される避難情報が、あまりに頻繁に発令されているように感じるが、基準等を見直すべきではないか。

答市町村は住民の生命や財産を守るため、災害発生の際に危険に感じ、①避難準備②高齢者等避難開始③避難勧告④避難指示（緊急）を使い分けて発令しています。避難情報は、関係機関の情報や、自ら収集した情報を総合的に判断し、速やかに住民の方に伝えなければなりません。そのため、具体的な判断基準を『避難勧告等の判断・伝達マニュアル』に定め、ホームページ上で公開しています。土砂災害警戒情報など、人的被害に結びつきやすい災害に関する避難情報は、危険度に応じて、できるだけ

香美市への移住者は増えているか

問香美市へのイターン移住者の数と定着率は？

答平成25年度から、定住推進課とNPO法人いなかみを通じて移住した方の集計ですが、これまでに101組162人の方が香美市へ移住し、このうち県外からの移住は56組87人でした。定着率は約8割です。仕事としては、会社員や介護職、自営業などの方がおり、退職してからの移住という方もいます。土佐山田町と香北町への移住が多く、集落維持や地域の担い手育成の観点からも、物部町への移住促進が課題となっています。移住者数は年々増加しており、さまざまな移住支援策の充実や、いなかみによる移住者ネットワークの広がりが、この結果につながっていると考えています。

一方、避難勧告等は、一定のまとまりをもった範囲に対して発令するもので、個別に発令するものではありません。あくまで想定に基づくもので、対象区域外であれば、避難の必要性が全くなく安全だということでもありません。自然災害に対しては、常に「自分の命は自分で守る」という意識を持ち、自発的に行動することが最も重要だということ、引き続き周知していきます。

け絞り込んだ範囲に発令することが望ましいものです。しかしこれまでは、情報伝達の手段と機能に限りがあり、区域を絞り込んだ発信ができていませんでした。現在『同報系防災行政無線』の整備を進めており、今後は、予測される災害の種類・危険度に応じ、対象地区を設定して発令するよう努めます。

☆長時間にわたるご参加、貴重なご意見をいただきありがとうございました。